

〈新・未来プロジェクトⅢ/要旨〉

再生可能エネルギー技術の海外展開に向けた戦略 Strategy for Overseas Expansion of Renewable Energy Technology

秋山 澄 緒¹⁾, 入江 和 大²⁾, 林 義 崇³⁾
藤原 翔⁴⁾, 吉川 直 樹⁵⁾

¹⁾ メタウォーター(株) プラントエンジニアリング事業本部 システム計画部
(〒530-0004 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル E-mail: akiyama-sumio@metawater.co.jp)

²⁾ 株式会社アドバンスドテクノ 開発部 要素技術課
(〒601-8306 京都府京都市南区吉祥院宮の西町31番地 E-mail: kazuhiko.irie@horiba.com)

³⁾ 水ing(株) 大阪支店プラント営業二部
(〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島7-1-5 辰野新大阪ビル E-mail: hayashi.yoshitaka@swing-w.com)

⁴⁾ 株式会社安川電機 システムエンジニアリング事業部 システム工場 社会・環境システム技術部
(〒824-8511 福岡県行橋市西宮市二丁目13番1号 E-mail: s-fuji@yaskawa.co.jp)

⁵⁾ 立命館大学理工学部 環境システム工学科
(〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 E-mail: n-yoshik@fc.ritsumei.ac.jp)

概 要

近年、先進国にとどまらず、世界各国で再生可能エネルギーが注目されている。中でも、中国の再生可能エネルギー産業の成長率はめざましく、発展途上国や新興国もこれに続くと考えられている。日本でも再生可能エネルギーへの注目度は高く、特に2011年3月11日に発生した東日本大震災を皮切りに、再生可能エネルギーを導入する機運が更に高まっている。

再生可能エネルギーの中でも、特に太陽光発電の技術において日本は世界に先行しており、世界最高水準の効率のモジュールを販売するなどテレビや紙面を賑わせている。その一方で、海外の再生可能エネルギー市場については、中国製の太陽光パネルやアメリカ・中国などの風車が多く販売される中、日本の企業は数えるほどしか入り込めていないのが現状である。

世界のエネルギー産業が徐々に再生可能エネルギーの導入・既存エネルギーとのハイブリッド化を開始し、国際社会全体が変革を求められている中で、今後、日本がエネルギー産業での国際的な競争力をつけるためには、〈①各々のエネルギー分野での技術力の向上〉〈②国内外戦略について中長期的なアクションプランの策定・実施〉〈③国ごと・地域ごとに適した再生可能エネルギーの提案〉が重要となる。

本論文では、これからビジネスチャンスが漸増していく発展途上国だけではなく、既にビジネスチャンスが到来している新興国に対してもアピールできるエネルギーマネジメントやビジネスプランを提案する。